

町内全域（富加町）

令和元年度事例

【地域の概要】

- 富加町は県中南部に位置し、16.82km²の町域の約半分を山林が占め、農地面積は約463ha（田293ha・畑170ha）。
- 認定農業者は14、認定農業者など担い手への集積面積は55ha（12%）である。
- 高齢化による耕作放棄や担い手に集積できない条件の悪い農地などで遊休農地が増加傾向にあり、将来の地域の農業の担い手を明確化する必要がある。

取組開始前の状況や課題

- 農家の高齢化が進んでおり、将来の地域の農業の担い手を明確化する必要がある。
- 園芸作物での新規就農者はあるが、新規で水田を集積する担い手がない。
- 地域の集落でも、このままでは農地の維持ができないという漠然とした不安を抱えているが、集落単位で将来について話し合う機会がなかったため、現状について把握できていない。

取組内容

- ◆「地域農業の将来（人と農地）に関するアンケート調査」を実施
- アンケート実施前に、町で農業委員、農地利用最適化推進委員を対象とした農地中間管理事業に関する研修会を開催し、集積についての知識を深めた。（8/19）
- 集落ごとに、誰を対象にアンケートを実施したらよいかを検討。11/19～11/21の期間において、各地区の農業委員等と個別面談し、アンケートの対象者（耕作者もしくは所有者）、アンケートの時期及び配布・回収方法について決定。
- 一部地区を除き、1/30開催の農事改良組合長会にてアンケートを配布し、組合長に直接回収していただくよう依頼した。アンケートの回収率については、直接回収する方法で実施したこともあり、100%に近い回答を得られた集落もあった。

今後の展開と方向性

- 今後は、アンケート結果に基づき地図を作成することで、農地の利用（耕作）状況の情報を視覚的に把握する。
- この地図を基に、農業委員、農地利用最適化推進委員が中心となって集落単位で話し合いを行い、実質化された人・農地プランを策定し、担い手の確保や集積等の地域の課題の解消を図る。